

訪問支援_1.07 訪問支援_見守り

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0 該当しない	53	3.2	28.3	28.3
	1 該当する	134	8.0	71.7	100.0
	合計	187	11.2	100.0	
欠損値	8 無回答	259	15.5		
	9 訪問支援・その他を受けていない	1226	73.3		
	合計	1485	88.8		
合計		1672	100.0		

訪問支援_1.12 訪問支援_見守り

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0 該当しない	1533	91.7	91.7	91.7
	1 該当する	139	8.3	8.3	100.0
	合計	1672	100.0	100.0	

訪問支援_2.07 訪問支援_配食

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0 該当しない	149	8.9	79.7	79.7
	1 該当する	38	2.3	20.3	100.0
	合計	187	11.2	100.0	
欠損値	8 無回答	259	15.5		
	9 訪問支援・その他を受けていない	1226	73.3		
	合計	1485	88.8		
合計		1672	100.0		

訪問支援_2.12 訪問支援_配食

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0 該当しない	1634	97.7	97.7	97.7
	1 該当する	38	2.3	2.3	100.0
	合計	1672	100.0	100.0	

訪問支援_3.07 訪問支援_家事

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0 該当しない	176	10.5	94.1	94.1
	1 該当する	11	.7	5.9	100.0
	合計	187	11.2	100.0	
欠損値	8 無回答	259	15.5		
	9 訪問支援・その他を受けていない	1226	73.3		
	合計	1485	88.8		
合計		1672	100.0		

訪問支援_3.12 訪問支援_家事

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0 該当しない	1661	99.3	99.3	99.3
	1 該当する	11	.7	.7	100.0
	合計	1672	100.0	100.0	

訪問支援_4.07 訪問支援_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0 該当しない	165	9.9	88.2	88.2
	1 該当する	22	1.3	11.8	100.0
	合計	187	11.2	100.0	
欠損値	8 無回答	259	15.5		
	9 訪問支援・その他を受けていない	1226	73.3		
	合計	1485	88.8		
合計		1672	100.0		

訪問支援_4.12 訪問支援_その他

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0 該当しない	1650	98.7	98.7	98.7
	1 該当する	22	1.3	1.3	100.0
	合計	1672	100.0	100.0	

利用背景_1.07 既存のサービスが住み慣れた地域になかったため

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0 該当しない	1260	75.4	86.8	86.8
	1 該当する	191	11.4	13.2	100.0
	合計	1451	86.8	100.0	
欠損値	9 無回答	221	13.2		
合計		1672	100.0		

利用背景_1.12 既存のサービスが住み慣れた地域になかったため

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0 該当しない	1481	88.6	88.6	88.6
	1 該当する	191	11.4	11.4	100.0
	合計	1672	100.0	100.0	

利用背景_2.07 既存のサービスはあるが、それでは対応できなかったため

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0 該当しない	1217	72.8	83.9	83.9
	1 該当する	234	14.0	16.1	100.0
	合計	1451	86.8	100.0	
欠損値	9 無回答	221	13.2		
合計		1672	100.0		

利用背景_2.12 既存のサービスはあるが、それでは対応できなかったため

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0 該当しない	1438	86.0	86.0	86.0
	1 該当する	234	14.0	14.0	100.0
	合計	1672	100.0	100.0	

利用背景_3.07 既存のサービスを利用しなかったため

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0 該当しない	1412	84.4	97.3	97.3
	1 該当する	39	2.3	2.7	100.0
	合計	1451	86.8	100.0	
欠損値	9 無回答	221	13.2		
合計		1672	100.0		

利用背景_3_12 既存のサービスを利用しなかったため

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0 該当しない	1633	97.7	97.7	97.7
	1 該当する	39	2.3	2.3	100.0
	合計	1672	100.0	100.0	

利用背景_4_07 相談にのって欲しかったため

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0 該当しない	1421	85.0	97.9	97.9
	1 該当する	30	1.8	2.1	100.0
	合計	1451	86.8	100.0	
欠損値	9 無回答	221	13.2		
合計		1672	100.0		

利用背景_4_12 相談にのって欲しかったため

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0 該当しない	1641	98.1	98.1	98.1
	1 該当する	31	1.9	1.9	100.0
	合計	1672	100.0	100.0	

利用背景_5_07 日中活動の場や、居場所が欲しかったため

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0 該当しない	393	23.5	27.1	27.1
	1 該当する	1058	63.3	72.9	100.0
	合計	1451	86.8	100.0	
欠損値	9 無回答	221	13.2		
合計		1672	100.0		

利用背景_5_12 日中活動の場や、居場所が欲しかったため

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0 該当しない	650	38.9	38.9	38.9
	1 該当する	1022	61.1	61.1	100.0
	合計	1672	100.0	100.0	

利用頻度_07 利用頻度

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 ほぼ毎日	86	5.1	5.3	5.3
	2 週に2～3回	223	13.3	13.6	18.9
	3 週に1回	354	21.2	21.6	40.5
	4 月に2～3回	327	19.6	20.0	60.5
	5 月に1回	405	24.2	24.7	85.2
	6 2～3ヶ月に1回	156	9.3	9.5	94.7
	7 半年に1回	51	3.1	3.1	97.9
	8 年に1回	35	2.1	2.1	100.0
	合計	1637	97.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	35	2.1		
合計		1672	100.0		

利用頻度_12 利用頻度

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 ほぼ毎日	84	5.0	5.1	5.1
	2 週に2～3回	216	12.9	13.2	18.3
	3 週に1回	358	21.4	21.8	40.1
	4 月に2～3回	318	19.0	19.4	59.5
	5 月に1回	406	24.3	24.8	84.3
	6 2～3ヶ月に1回	168	10.0	10.3	94.6
	7 半年に1回	59	3.5	3.6	98.2
	8 年に1回	30	1.8	1.8	100.0
	合計	1639	98.0	100.0	
欠損値	システム欠損値	33	2.0		
合計		1672	100.0		

相談の有無_07 本人から相談を受けたことがあるか

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 ない	1093	65.4	79.1	79.1
	2 少しある	275	16.4	19.9	99.1
	3 かなりある	13	.8	.9	100.0
	合計	1381	82.6	100.0	
欠損値	システム欠損値	291	17.4		
合計		1672	100.0		

相談の有無_12 本人から相談を受けたことがあるか

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1 ない	1127	67.4	80.8	80.8
	2 少しある	252	15.1	18.1	98.9
	3 かなりある	16	1.0	1.1	100.0
	合計	1395	83.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	277	16.6		
合計		1672	100.0		

参考資料（４）

あったかふれあいセンターにおける利用者記録様式と地域支援記録様式

利用者記録様式

I 基本情報		※2010年9月(基準時点)の状態を記入。その後の変化は、⇒の次に追加記入。						
1	氏名(イニシャル)	N・S(中岡慎太郎の場合)						
2	性別	1 男 2 女						
3	年齢区分	1 ~64	2 65~69	3 70~74	4 75~79	5 80~84	6 85~89	7 90~
4	要介護度	1自立	2要支援1	3要支援2	4要介護1	⇒		
5	居住地域	1 野友	2 野川	3 加茂	4 久府付	5 二又	6 島	7
6	家族構成(同居者について複数回答)	1 一人 2 配偶者 3 息子 4 娘 5 息子配偶者 6 娘配偶者 7 孫 8 その他 () ⇒						

Ⅱ 基準時点評価（2010年9月）

記入日：平成____年 月 日（ ）～ 月 日（ ）

	項目	程度・レベル	自由記述
心身機能	健康状態	1 要注意の状態ない 2 要注意の状態ある	
	IADL①バスや自動車を使って1人で外出できる	1 できる 2 近いところならできる 3 できない	
	IADL②食料品や日用品の買物が自分でできる	1 できる 2 簡単なものならできる 3 ほとんどできない	
	IADL③食事の用意や片づけが自分でできる	1 できる 2 簡単なことならできる 3 ほとんどできない	
	IADL④銀行・郵便局でのお金の出し入れが自分でできる	1 できる 2 簡単なことならできる 3 ほとんどできない	
	IADL⑤近所の人と挨拶や立話をする事ができる	1 よくする 2 少しする 3 ほとんどしない	
	物忘れや意識混濁・精神的興奮	1 ない 2 少しある 3 かなりある	
生活ニーズ	活動の程度と参加意欲（食事も含む） 注1)	1 かなりある 2 少しある 3 ほとんどない	
	外出の程度と参加意欲 注2)	1 かなりある 2 少しある 3 ほとんどない	
	買物支援のニーズ 注3)	1 ない 2 少しある 3 かなりある	
	その他の生活支援のニーズ 注4)	1 ない 2 少しある 3 かなりある	
	相談のニーズ（利用者からの持ちかけ） 注5)	1 ない 2 少しある 3 かなりある	
	主体的意思表示 注6)	1 自分から意思表示する 2 働きかけがあれば意思表示する 3 ほとんど意思表示しない	
対人交流ニーズ	利用者間の交流 注7)	1 自らすすんで交流する 2 少し働きかけがあれば交流する 3 かなり働きかけがあれば交流する	
	家族間の交流（同居、別居の両方） 注7)	1 かなりある 2 少しある 3 ほとんどない	
	近隣との交流 注7)	1 かなりある 2 少しある 3 ほとんどない	

Ⅲ 過程評価（１０月以降の週単位に評価）

			月 日（ ）		月 日（ ）	
項目		程度・レベル	レベル	自由記述	レベル	自由記述
心身機能	健康状態	1 要注意の状態ない 2 要注意の状態ある				
	IADL①バス や自動車による外出	1 できる 2 近いところならできる 3 できない				
	IADL②食料 品や日用品の買物	1 できる 2 簡単なものならできる 3 ほとんどできない				
	IADL③食事 の用意や片づけ	1 できる 2 簡単なことならできる 3 ほとんどできない				
	IADL④お金 の出し入れる	1 できる 2 簡単なことならできる 3 ほとんどできない				
	IADL⑤挨拶 や立話	1 よくする 2 少しする 3 ほとんどしない				
	物忘れや意識混濁・精神的興奮	1 ない 2 少しある 3 かなりある				
生活ニーズ	活動と参加意欲（食事含む） 注1)	1 かなりある 2 少しある 3 ほとんどない				
	外出と参加意欲 注2)	1 かなりある 2 少しある 3 ほとんどない				
	買物支援 注3)	1 ない 2 少しある 3 かなりある				
	その他の生活支援 注4)	1 ない 2 少しある 3 かなりある				
	相談 注5)	1 ない 2 少しある 3 かなりある				
	主体的意思表示 注6)	1 自分から意思表示する 2 働きかけがあれば意思表示する 3 ほとんど意思表示しない				
対人交流ニーズ	利用者間の交流 注7)	1 自らすすんで交流する 2 少し働きかけがあれば交流する 3 かなり働きかけがあれば交流する				
	家族間の交流 注7)	1 かなりある 2 少しある 3 ほとんどない				
	近隣との交流 注7)	1 かなりある 2 少しある 3 ほとんどない				

北川村あったかふれあいセンター 地域支援記録様式 _____ 年 _____ 月

項 目	記入者 ()
① 地域の潜在ニーズ発見のための活動 i) 地域訪問や電話による個別ニーズの把握 ii) 調査対象者名簿と調査票によるニーズ調査 iii) その他	
② 地域の機関・団体・支援者との連携やネットワーク形成のための活動 i) 保健・福祉行政機関との連携 ii) 民間の事業者や団体との連携 iii) 民生委員・運営委員・見守りさんとの連携 iv) 上記の間でのネットワークの形成 v) その他	
③ ボランティアの発掘・育成のための活動	
④ その他 (障害者や児童への支援など)	

注： 1) 「地域」とは、北川村を中心するが、村外に広がるより広域地域も含みます。
2) あったかふれあいセンターに関わる地域支援活動に限るが、社協の他の地域支援活動との関連で行われたものも含む。
3) その地域支援活動の内容とともに、そのことによってもたらされた結果や成果についても可能な限り記入する。

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧

研究成果の刊行に関する一覧表

雑 誌

著者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
平野隆之	フレキシブル支援センター（小規模多機能ホーム・地域共生ホーム・コミュニティハウス）の行方；高知発「あったかふれあいセンター」を考える	宅老所・小規模多機能ケア白書 2011（CLC）		68-75	2011
平野隆之	地域福祉の推進をめぐる課題：新たなパラダイムの意義	社会福祉研究（鉄道弘済会）	108	40-48	2010
斉藤雅茂 他	「小地域ネットワーク活動支援データ管理ソフト」の開発と設計思想；要援護高齢者への見守り活動の評価ツール	日本福祉大学社会福祉論集	123	85-95	2010
朴 兪美 他	「研究会事業」という地域福祉研究者の新たな実践現場；高知県での取り組み事例から	地域福祉実践研究	創刊号	78-88	2010

その他

日本福祉大学地域ケア研究推進センター「あったかふれあいセンター利用者データ管理、Ver.1.0 操作管理説明書」2010年7月21日。

IV. 研究成果の刊行物・別刷

中
提

フレキシブル支援センター

(小規模多機能ホーム・地域共生ホーム・コミュニティハウス)

の方

～高知発!!「あったかふれあいセンター」を考える～

日本福祉大学社会福祉学部

教授 平野 隆之

「フレキシブル支援センター」とは何か

「フレキシブル支援センター」は、国のふるさと雇用再生特別基金事業の中から生まれました。縦割りを超え、サービスの隙間がなくなるよう柔軟な支援を行おうと、内閣府から提案された事業です（図表1）。中山間地の多い高知県では、このフレキシブル支援センターを地域の実情にあわせて発展させ、民家や廃校などの地域資源も活用しながら「あったかふれあいセンター」事業として2009年から推進しています。2010年4月現在、高知県内の29市町村38か所で取り組まれています。

フレキシブル支援センターのイメージ

- [illegible]

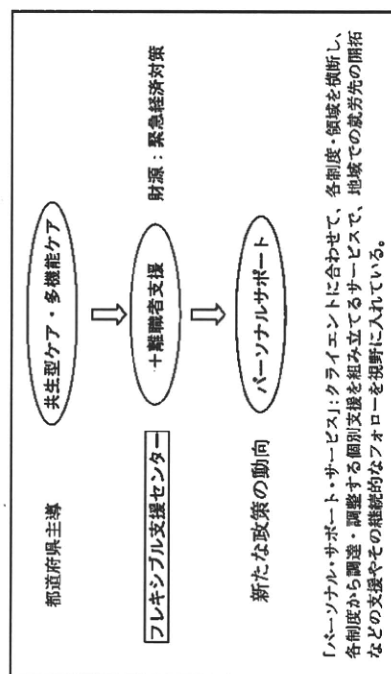


1 般 圖

フレキシブル支援センターには、5つの特徴があります。1つは、柔軟な支援を行うこと。子ども、障がい者、あるいは高齢者といった制度的な縦割りで支援を行うものではないということです。2番目に、離職者などの現場訓練の支援、雇用の継続を目指すことになっています。これは、フレキシブル支援センターの財源が、「ふるさと雇用再生特別基金」という国の緊急経済対策のお金であるためです。3番目に、緊急経済対策なので、限度は3年間です。3年間に、雇った元離職者がそのまま働けるよう、その事業を継続できる努力をしなければなりません。4番目に、地域に密着した運営をすること。そして5番目に、この事業は厚生労働省ではなく、内閣府から提案されたという点が挙げられます。今課題になっている官僚主導ではなく政治主導といわれるものは、ある意味では内閣府提案という形で出てくると厚生労働省の今の縦割り行政の中では、これを政策化できなかったということの表れでもあります。しかし、この事業が安定的に継続されるためには、厚生労働省の仕組みとしてつくっていかねばならないという課題もあります。

共生型ケア・多機能ケアからの展開

図表2は、内閣府がフレキシブル支援センターを提案したことの意味を、政策展開としてどう理解するか説明したものです。



図表2. 「フレキシブル支援センター」の政策展開上の位置

フレキシブル支援センターの背景には、共生型ケアや多機能ケアの存在があります。共生型ケアとは、利用者を属性で区別しないこと、つまり必要に応じて

89

提言 フレキシブル支援センター（小規模多機能ホーム・地域共生ホーム・コミュニティハウス）の行方
～高知発！！「あったがふれあいセンター」を考える～

て誰が来てもいいという取り組みです。そういう実践は、制度から生まれるものではなく、先に実践から始まります。

富山県の「このゆびと一まれ」が取り組み始め、それを富山県が全国に先駆けて支援したわけですが、最初は行政側もその意義を理解できなかった。縦割りになっている中で、誰が来てもとよいというわけにはいかない。そこで最初は、障がい児の分だけ補助することから支援を始めましたが、徐々に富山型福祉として認めて県単位で支援するようになります。その後、富山県の影響を受けた滋賀県、長野県、熊本県、佐賀県で、共生型ケアを支援する制度をつくり始め、共生型ケア実践を行政が支援する形で普及していきます（図表3）。

熊本県では、対象別を超えて利用者が同じ所でケアを受けるという意義を早くから認め、国ではなく県が補助金を出す形で、いまや県内200か所ぐらいで取り組みられています。また、長野県では田中康夫元県知事が2002年、高齢者と子どもの居場所という「宅幼老所」という言葉で政策化しました。この言葉に表れているように、共生型の取り組みは古くは宅老所の実践から発展したものです。宅老所の運動は、認知症高齢者のケア拠点としての取り組みと、利用対象を限定しない共生型としての取り組みの二つの流れを持っていますが、後者がこの行政主導型の原点にあります。国がそういった先駆的な取り組みをなかなか政策化できない中で、全国に普及させるためには、都道府県の役割が大変大きい。そして2009年、高知県もそれに取り組み段階に來たと理解してもらいたいと思います。

共生型ケア、あるいは多機能ケアのように、一つの機能だけを持つのではなく、さまざまなニーズに応じてケアを継ぎ足していくことが、今の福祉の事業展開には必要になっています。これは、介護保険制度の中で小規模多機能型居宅介護が制度化された流れに通じます。こうした実践を踏まえて、フレキシブル支援センターは登場しますが、フレキシブル支援センターは単にケアの拠点だけを意味するものではなく、そこに持ち込まれる相談に対応することもある課題です。と同時に、離職者を雇ってその人がその領域で働き続けられるような支援を伴っているのです。

新しい離職者支援「パーソナルサポーター」

実は、離職者への支援について、新しい制度が生まれようとしています。菅首相の所信表明にあった「パーソナルサポーター」です。次の新しい政策動向として、現在、内閣府主導でモデル事業が展開されています。パーソナルサポーターの定義にはさまざまありますが、簡単に言うと、横にいながらともに走っていくような「伴走者」の支援だといわれています。

離職した人が、再度雇用されたとしてもすぐに離職してしまったり、あるいはホームレスの人が緊急的な入居施設に入ったとしても、そこが堅苦しくてまたホームレスの状態に戻ってしまうなど、再び離職状態になる問題が指摘されています。その人を制度につなげるだけでなく、本人がその制度の中でうまく生活を組み立て直せるように支援することには力を入るべきではないか、というのがパーソナルサポーターの政策的議論になっています。本来そういう役割に位置づけられる民生委員やソーシャルワーカーが、いまひとつ機能していないのではないかという問題提起も含めて、厳しい経済状況の中で離職者という切り口を重点点においた政策です。

都市型だけでなく、農村型、山村型を発信

極端な言い方をすれば、フレキシブル支援センターは、パーソナルサポーターに先行して実験している事業とも言えます。柔軟な支援を地域の人たちに展開するという新しさとともに、その支援はそこで雇用した人が持続できるように機能しなければならぬという、二重の新しさ、今日的な課題を背負っています。

パーソナルサポーターでは、都市部の離職者であるホームレス支援に政策ポイントが置かれがちですが、高知県のように中山間地にフレキシブル支援センターをつくり、継続的な雇用を生み出す仕組みに変えていくことを中山間地から発信していかないと、パーソナルサポーターが都市型の政策展開になってしまいう可能性ががあります。

しかも、フレキシブル支援センター事業に手を挙げた県は3県で、高知県以外は北海道の3市町村、岐阜県の1市町村だけです。29市町村で取り組む高知県から、農村型、山村型、あるいは中山間地型に必要な仕組みであることを発信していく必要があります。その仕組みを制度化して安定的に供給すること

ができるようになれば、ほかの中山間地で苦しんでいる介護事業者の基盤づくりにもつながっていきます。高知県での「あったかふれあいホーム」の成果がある意味では政治主導のきっかけになるのではないかと思います。取り組みでもええたらと思います。

後発にもかかわらず、なぜ「高知発」なのか

高知県の「あったかふれあいセンター」事業は、最初から対象を超えた共生型ケアを目指そうとしたわけではありません。

高知県は人口密度が大変少なく、1kmあたりに介護保険を使っている人が何人いるかを調べたところ、東京都でおよそ130人、「限界集落」という言葉が生まれた高知県大豊町では0.4人しかいません。すべての在宅サービスの利用者が1人にも満たない状況では、一つの事業所が高齢者だけを対象として維持、展開することは大変難しい。さらに障がい者の利用密度を計算したら、もっと少ないことは明らかです。中山間地域の多い高知県では、多様な利用者の人間関係や社会関係を豊かにする意味でも、資源の効率的な配置という意味でも、一つの拠点が対象を超えて多様な事業として展開されることが重要なのです。利用者の多いところに居を移しなさいという政策ではなく、むしろその拠点多機能化することによって、そこで暮らし続けられるような条件をつくりましょうという、注目すべき政策課題なのではないかと思っています。

ほかの都道府県では、どのように共生型ケアを支援しているかを見ていくと、基本的には二つあります。一つは、拠点をつくるときの整備費用の支援です。たとえば富山県は、富山型デイサービスを整備するときの整備費として、県が2分の1を、市町村が2分の1を補助していました。滋賀県の場合は、県が2分の1、市町村が4分の1、事業者が4分の1です。もう一つは、人件費の補助です。滋賀県では、地域福祉を担えるような人材育成のために、コーディネーターの人件費として、県が3分の1を、300万円を上限に補助していました。この制度はもう滋賀県に残っていないのですが、今回の高知県の場合も人件費補助があり、これだけ大規模に人件費をつけて実施するということで、大変大きな実験といえます。

人件費を付けたことで、雇われた人が新しい支え方の仕組みをつくりだして

いかなければ、雇用対策としての3年という期間でおしまいになってしまいます。はつきり言って、3年でできる事業ではありませんが、「少なくともこういう可能性がある」ということを証明して見せていく必要があります。

地域福祉の政策とともに

図表4は、熊本県と高知県の取り組みの比較です。熊本県では、「地域の縁がわづくくり推進事業」という名前で、高知の「あったかふれあいセンター」とほぼ同じような取り組みをしています。熊本県の財源は、県の単独補助で、直接実践主体に支援するため、市町村の負担がありません。そうすると当然補助額は小さくなりますが、熊本県では丁寧な掘り起こしが進み、200か所での事業が展開されています。そういう意味では、事業の幅が非常に広いのが特徴です。

高知県では、新しく県庁内に地域福祉部をつくり、対象別の福祉ではなくて地域福祉としてフレキシブル支援センターに取り組むため、市町村に地域福祉計画をつくるよう誘導しています。しかし、策定率は全国で下から2番目です。熊本県下では、地域福祉計画が100%策定されています。そういう点では、高知県内の市町村行政がこのフレキシブル支援センターを理解して、地域福祉の政策とともに進める覚悟をもつことが求められます。

その際に重要な鍵となるのが、県がブロックで市町村を応援する仕組みです。高知県の場合には「福祉保健所」、熊本県の場合は「地域振興局」という組織がそれにあたります。熊本県で既に実証済みですので、高知県でも実践や市町村が福祉保健所のバックアップを受けながら普及できればと考えます。

高知県の取り組みはやや後発ですが、先に述べたように注目点があります。ぜひ高知県の取り組みを根拠に、国に働きかけることができたいと思います。

* 本稿は、2010年9月11日に高知県で開催された「第1回地域での暮らしを支える柔軟な支援を考える全国集会in高知」の基調講演を収録したものです。

年	富山県	長野県	新潟県	佐賀県	高知県
1993年	「このびと一まれ」開所				
1996年	障害児者ケアセンター事業				
1997年	民間ケアセンター入居事業（～1999）				
1998年	「民間ケアセンター」入居事業の対策を策定者に託す				
2000年	「ふれあいケアセンター」入居事業				
2001年					
2002年	障害児者ケアセンター開設	小規模ケア施設（宅内型）を介して、ケアセンターによるケア			
2003年	富山型ケアセンター（2区）	みんなであつた地域ケアセンター（2区）			
2004年	富山型小規模多機能センター開設	「あつたかたんぐり」を介して、ケアセンターによるケア			
2005年	「富山型ケアセンター」施設支援事業（「あつたかたんぐり」施設も補助対象に）	「コモンハウス」入居事業にも参加（出居支援事業も追加）			
2006年					
2007年					
2009年					

図表3

1	事業名	熊本市	高知県
2	開始年	平成16年度（2004年）	平成21年（2009年）
3	定義	地域の誰もが集えるいつでも気軽に利用し交流できる地域の拠点	支援の必要ない人でも利用可能。地域ニーズに応じた多機能なサービスの提供。住民参加による持続可能な運営体制。
4	条件	1. 誰でも利用可能であること 2. 常設であること	支援の必要ない人でも利用可能 「集い」機能は必須（概ね週に5日程度）
5	財源	県単独事業、一部「ふれあいホーム」のリーダー配置にふりかたき利用（4名）	国交付金（10/10）
6	事業費	1000万円（H20・H21・H22） （H18-4000万円、H19-2000万円）	ふるさと雇用再生特別交付金 5億円
7	実施主体	公募方式で実施主体に直接補助	運営主体は市町村であり、市町村から委託された主体が事業を実施する
8	補助対象	整備費 + 事業費（ソフト支援）	人件費 + 事業費
9	事業数	200か所（うち補助79か所） H19-106、H20-181、H21-200	38か所（25市町村） H21-28か所
10	運営組織	NPO（30%）・社会福祉法人（30%）が中心。民間を強化する政策方針。（社協は8%）	社会福祉協議会が中心（65%）。中山間地域での社協強化の流れを受けている。
11	類型	これまでは住民交流サロン型・小規模作業所交流サロン・小規模多機能福祉ホーム（→小規模多機能はふれあいホームへ）	高齢者制度併設型 障害者制度併設型 サロン併設型
12	施策の体系・事業と計画の関係	地域福祉支援計画と地域福祉推進における「縁がわ」を位置づける。市町村の策定率100%だが、縁がわの記載は少ない。	あつたかたんぐり地域福祉計画 「高知型福祉」としてプログラムを取り入れた計画づくりを目指す。地域福祉全体の体系化は遅れている。
13	事業における「相談」の位置	サービスを入りにしており、相談機能は強い。地域福祉推進の体系上（計画）も相談は切り離されている。	フレキシブルな支援事業は相談を含みこんでいるため、相談支援としての活用も目指すが、実施はまだ不十分。
14	推進方法	当初「策定」においてモデル事業を実施し、先駆的事例をなめるフォーラムや冊子作りにより力を入れている。20年ごろから普及。	「なかよし交流館」などモデル的事例はあるが、明確に打ち出していない。初年度から取り組みの数は多い。
15	支援体制	地域振興局（福祉事務所）を介して市町村を支援する体制を構築中。（保健所と同じ場所にあるが組織は別になっている。）	福祉保健所による支援体制を検討中。地域支援の役割が大きい。
16	小規模福祉の意図	「地域の結」づくりで小地域、「安心の礎」で地域の強化。地区福祉は5割を目指す。	H20・H21「ステップアップ研究会」 [※] で社協強化を進めてきた。地区社協組織率は低い。
17	今後の方向	H22年度で事業終了 点から面への展開を模索。	H23年度で国の補助終了 事業継続の方法を検討中。国への要望。

図表4

※ステップアップ研究会：H20～H21年度にかけて、市町村社協とその支援者がその役割を整理して実践をおとしてスキルアップを目指す研究会

〔あったかふれあいセンサー利用者データ管理〕

操作説明書

日本福祉大学地域ケア研究推進センター

発行日 2010 年 7 月 21 日

[Ver.1.0]

目次

1. インストール方法	1
(1) インストール	2
2. 基本操作 起動方法、帳票出力フォルダ、カナ検索	5
(1) 起動方法	5
(2) 帳票出力フォルダ	9
(3) カナ検索方法	10
3. 機能説明	11
(1) 機能概要	11
4. 利用者登録・変更・削除	12
(1) 利用者データ入力画面の表示	12
(2) 利用者データの新規登録	14
(3) 利用者データの変更	15
(4) 利用者データの削除	17
(5) 利用者データ登録・変更・削除の終了	18
5. 利用者台帳作成	19
(1) 利用者台帳作成(出力)画面の表示	19
(2) 利用者台帳の作成	20
(3) 利用者台帳作成の終了	21
6. 事業者名変更	22
(1) 事業者入力画面の表示	22
(2) 事業者名の変更	23
(3) 事業者名変更の終了	24
7. 送付ファイル作成	25

あったからいあいセンター利用者データ管理」は、利用者の登録を行うことで、台帳一覧出力を行うことができます。

1. インストール方法

インストールの際には以下の点をご確認ください。

<前提条件>

- 当ソフトは、なるべく専用パソコンとして使用できるパソコンへのインストールを推奨致します。
- インストール前に、すべてのプログラムを終了してください。
- 動作環境につきまして、次の要件を満たす環境でご利用ください。

OS	Windows Vista(32bit)、Windows XP、Windows 2000 (各日本語版)
CPU	Windows Vista : 800MHz 以上 Windows XP : 500MHz 以上
メモリ	Windows Vista : 512MB 以上 Windows XP : 256MB 以上
HDD	50MB の空きがある HDD
解像度(液晶モニタ)	XGA(1024×768)以上
その他条件	・ Microsoft Excel(2000 以降)がインストール済 ・ プリンタの利用が可能

- Microsoft Access はインストールされている必要はありません。
- インストールするには、管理者権限を持つユーザーに行っていただく必要があります。なお、管理者権限を持つユーザーにつきましてはシステム担当者へお問い合わせ下さい。

※Microsoft、Windows、Excel、Access は米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

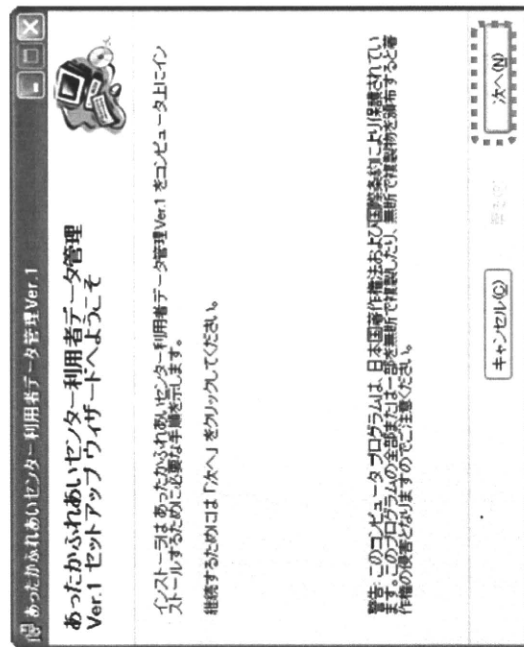
(1) インストール

あったかふれあいセンター利用者データ管理 Ver1.1 をインストールを行います。

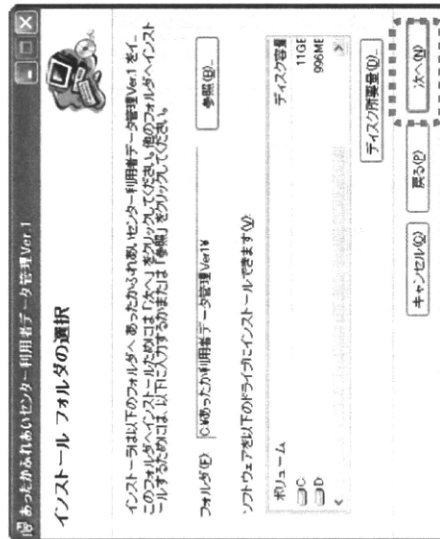
(ア) [あったか利用者データ管理 Ver1.1.ms] をダブルクリックします。



(イ) セットアップウィザード（インストーラ）が起動しますので、[次へ(N)]をクリックします。



(ウ) インストールフォルダの選択が表示されます。[次へ(N)]をクリックします。

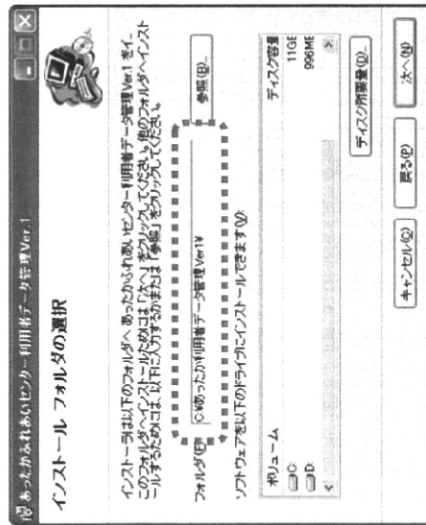


※C ドライブにインストール不可能な場合は、[フォルダ(F)]をインストール可能なドライブに変更してください。

インストールするドライブをCからDに変更したい場合には、[フォルダ(F)]の文字列をCからDに変更します。

変更前[フォルダ(F)] : C:\あったか利用者データ管理 Ver1.1

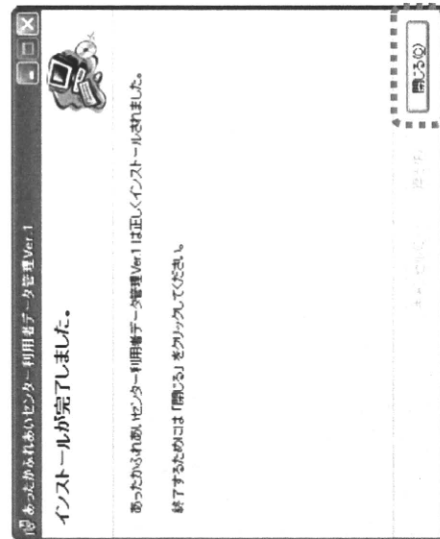
変更後[フォルダ(F)] : D:\あったか利用者データ管理 Ver1.1



(エ). インストール確認が表示されます。[次へ(N)]をクリックするとインストールが開始されます。



(オ). インストールが完了しました。[閉じる(C)]をクリックしてインストールを終了してください。



2. 基本操作 起動方法、帳票出力フォルダ、カナ検索

(1) 起動方法

(ア). ①[スタート]をクリックし、次に②[すべてのプログラム]、③[あったか利用者データ管理 Ver.1]の順にカーソルを合わせ、④[あったか利用者データ管理 Ver.1]をクリックします。



(イ). 認証画面が表示されます、[パスワード]を入力し、[OK]をクリックします。

